

Connexion ユーザー各位

紀伊國屋書店
OCLC 事業部

Connexion Client ver. 3.1 へのアップデート

OCLC Connexion client バージョン 3.1 へのアップデートについて以下にご説明いたします。
バージョン 2.63 からバージョン 3.1 へアップデートした場合、バージョン 3.0 で追加された
全ての機能が含まれていますので、3.0 のインストールは不要です。

アップデートの手順は p. 6 以降に記載しています。

【Connexion client ver.3.1 のシステム要件】

- Windows 10, 64-bit version 1803 以降 (Windows 11 全てのバージョンを含む)
* Windows のバージョンを確認するには、<Windows>キーと<R>を同時に押し、「ファイル名を指定して実行」ダイアログで「winver」と入力して<Enter> (または「OK」をクリック)
注意: Connexion client ver.3.1 はマイクロソフト社によるサポートが終了した Microsoft Office のバージョンとは互換性がありません。
サポート対象外の古い 32 ビット版 Microsoft Office をご利用の場合は、Microsoft Office を新しいサポート対象バージョンにアップグレードするか、Connexion client のアップグレードを行わず、引き続きバージョン 2.63 をご利用になることをお勧めします。
- Microsoft .NET Frameworks 4.7.2 以降
* 上記 Windows バージョンの場合は要件を満たしています。
- RAM 4GB 以上
- 2GB のハードディスク空き容量

【バージョン 3.1 での改善点】

インターフェースから削除された廃止機能

- WorldCat クイックサーチツールバーから GLIMIR クラスタリングを選択するチェックボックス
- 一覧表示での View > Sort 上の選択肢「Category」
- File > Import Records 画面で Options を選択した場合の Assign My Status for Bibliographic Records エリアにある「Type」ドロップダウンメニュー

Connexion ヘルプ画面の改訂

Connexion client 3.1 のユーザーインターフェースでは、ヘルプドキュメントへのアクセス機能が改善されました。これには、書誌レコードおよび典拠レコード内から、典拠/書誌データ

フィールドに関するドキュメントへ直接リンクできるようになるなどの更新が含まれます。

コネクションクライアントからデフォルトのキーマップ「CTRL+A」を削除

「CTRL+A」は Microsoft 製品で「すべて選択」に使用されるため、Connexion client 内で「Edit Constant Data Online Apply Default」としてデフォルト設定されたこのキーの割り当てはユーザーによって解除される事が多いものでした。現在、「Edit Constant Data Online Apply Default」というコネクションクライアントのキーマップはショートカットキーに割り当てられていない状態となっており、使用頻度が高い場合は新しいキーマップを割り当てる必要があります。

■キーマップの割り当て

Tools→Keymaps→Display Commands for Category 欄で「Menu Item」にチェック→Menu Item 欄で「EditConstantDataOnlineApplyDefault」を選択→Press New Shortcut Key: 欄で割り当てたいキーを押す(キーの名称がすぐに入るのでご注意ください)

* 現在割り当て済みのキーは「List All…」ボタンをクリックして確認できます。

書誌レコードのリーダー部と 008 のドロップダウンメニューが更新

書誌レコードのリーダー部および 008 のドロップダウンメニューが、8 つの書誌フォーマットに対応した最新の項目に更新されました。欠落していた選択肢が追加され、廃止された項目はドロップダウンメニューから削除されました。

ユーザーインターフェースの変更

OCLC が掲げる公平性、多様性、包摂性の推進という取り組みの一環として、「マスターレコード (master record=ローカル編集フィールドを含まない参加館共有目録レコード)」という用語が「WorldCat レコード (WorldCat record)」に変更されました。

【バージョン 3.0 での改善点】

Connexion コンポーネントのアップグレード

Connexion client コンポーネントが、64 ビット版の Windows 10 に対応するようアップグレードされました。これにより、システムは 64 ビット版の Windows 10 のみをサポートするようになりました。

さらに、クライアントの設定が変更され、ソフトウェアやマクロを実行するために、ユーザー各自がコンピューターの管理者権限を持つ必要がなくなりました。この変更に対応するため、マクロは別のディレクトリに移動されています。(クライアント 3.0 のインストールには、引き続き管理者権限が必要です)。

マクロは従来、

X:¥Program Files (x86)¥OCLC¥Connexion¥Program¥Macros

にインストールされていましたが、

X:¥Users¥<user>¥AppData¥Roaming¥OCLC¥Conne

にコピーされます

(ここで、X はハードドライブのドライブ文字、<user>は Windows のユーザー名です)。

このアップグレードに伴い、既存のマクロが正常に機能するためには変更が必要となります。各マクロ内で、**CreateObject("Connex.Client")**のすべての記述を

GetObject(", "Connex.Client")に変更する必要があります

クライアントの起動時に、変換プロセスが自動的に実行されます。[開括弧 (の後にカンマがつく事にご注意ください。)]

変換されていない元のマクロは、引き続き以前の場所に残ります。

ユーザーインターフェースの変更

機能の廃止に伴い、また OCLC の取り組みを支援するため、クライアントのユーザーインターフェースに一部変更が加えられました。

廃止された「本日のメッセージ」は、「Wilcome 画面」に置き換えられました。新しい表示画面では、引き続きサポート情報を提供するとともに、ユーザーの目録作成権限レベルを通知します。

また、Connexion client を起動した際、新たにデザインを一新したスプラッシュページが表示されます。

さらに、公平性、多様性、包摂性の推進という OCLC の取り組みを支援するため、Connexion client のユーザーインターフェースにおいて以下の変更が行われます：

- 従来「マスターモード (master mode)」と呼ばれていた権限モードは、「クオリティモード」に改称されました。

インターフェースから削除された廃止機能

以下の廃止された機能が、Connexion クライアントのユーザーインターフェースから削除されました。

- 本日のメッセージ

- GLIMIR 機能
- 機関レコード (Institution Record) 機能
- Web コンテンツの収集
- メタデータの抽出
- デジタルコンテンツの添付
- Connexion client 内蔵ヘルプ (オンラインサポートサイトへ移行)

今後の変更に向けた利用状況の分析

これまで利用状況データを収集していなかった特定の機能について、OCLC は Google Analytics を活用し、今後の Connexion クライアントのリリースに反映させていきます。

Connexion ヘルプの改訂

Connexion client に内蔵されていたヘルプシステムの廃止に伴い、クライアントに関するすべてのドキュメントを見直し、改訂した上で、OCLC のサポートサイトへ移行しました。クライアント内のリンクやヘルプボタンをクリックすると、オンラインドキュメントに直接アクセスできるようになります。これにより、検索が容易になり、よりタイムリーかつ効率的な更新が可能になります。

マクロの更新

- Connexion client 3.0 では、マクロの保存場所が変更されました。

- 現在、マクロは

X:¥Program Files (x86)¥OCLC¥Connexion¥Program¥Macros

にインストールされています。ここで、**X** はハードドライブのドライブ文字です。

- Connexion clien 3.0 では、マクロは

X:¥Users¥<user>¥AppData¥Roaming¥OCLC¥Connex

にコピーされます。ここで、**X** はハードドライブのドライブ文字、<user>は Windows のユーザー名です。

各マクロ内において、**CreateObject("Connex.Client")**のすべての記述を

GetObject(", "Connex.Client")に変更する必要があります。この変換は、クライアントの起動時に自動的に実行されます。

元のマクロは、従来のディレクトリに残ります。

クライアント 3.0 に同梱されている OCLC およびデューイのマクロブックは、すでに変換済みであり、新しい場所にインストールされます。

非ラテン文字の表示の改善

クライアント 3.0 では Microsoft .NET Framework 4.7.2 が使用されており、これにより、

以前はクライアントで表示および使用するためにフォントのダウンロードが必要だった非ラテン文字の使用が可能になりました。

<インストール前の確認事項>

【注意】新しいバージョンをインストールする前に、現在お使いのプロファイル（設定ファイル）とマクロ（お使いの場合のみ）のバックアップをお勧めします。以下が保存されている場所です。

- 現在のプロファイル:

- **X:¥Users¥<user>¥AppData¥Roaming¥OCLC¥Connex¥Profiles**

* X はハードディスクのアルファベット、<user>は Windows のユーザー名に読み換えてください。

- マクロ:

- **X:¥Program Files (x86)¥OCLC¥Connexion¥Program¥Macros**

または

- **~¥%LocalAppData%¥VirtualStore¥Program Files(x86)¥OCLC¥Connexion¥Program¥Macros**

* 無事インストールされた場合、設定は引き継がれており、上記のバックアップファイルを使用する必要はありません。

* ver. 3.0 では、マクロは以下の場所に保存されます。

X:¥Users¥<user>¥AppData¥Roaming¥OCLC¥Connex

<アンインストール手順>

バージョン 2.63 または 3.0 からバージョン 3.1 へアップグレードする場合、Windows はアップグレードを実行し、以前のバージョンのアンインストールを強制することはありません。すでにバージョン 3.1 をインストールしており、再インストールが必要な場合は、まず現在インストールされている 3.1 をアンインストールする必要があります。以前のバージョンの削除を求めるメッセージが表示された場合は、以下の手順に従ってください。

1. **コントロールパネル > プログラムと機能 > プログラムのアンインストールまたは変更** の順に選択
2. プログラム一覧から **OCLC Connexion client** を選択
3. 「**アンインストール**」をクリック
4. 「**はい**」をクリック

注：クライアント 3.1 にアップグレードした後で 2.63 に戻す場合は、2.63 をインストールする前に、3.1 をアンインストールする必要があります。両方のバージョンのクライアントがコンピュータに同時に存在すると、マクロやその他のシステムに不具合が生じる原因となります。

<インストール手順>

1. ソフトウェアのダウンロードとインストール

- ① ブラウザを立ち上げ、
https://help.oclc.org/Librarian_Toolbox/Software_downloads/Download_cataloging_software
に接続
- ② **Download and install Connexion client 3.1** の 1. にある [ConnexionClient3.1...](#) のリンクをクリック
- ③ **名前を付けて保存** をクリック
- ④ ファイルを保存する場所を選択し、**保存** をクリック
保存場所を記憶(⑤へ)するか、ダウンロード完了後に**ファイルを開く**(⑤b へ)をクリック
- ⑤ ダウンロード完了後にすぐファイルを開くを選択しなかった場合は保存したファイルを実行
 - a. Windows エクスプローラーでダウンロードファイルを保存したフォルダに移動
 - b. クライアントの***.exe ファイル**をダブルクリックするか、***.exe ファイル**をクリックして Enter キーを押す
「このアプリがデバイスに変更を加えることを許可しますか？」には**はい**を選択「Do you want to install OCLC Connexion Client v3.1?」で再度**はい**を選択
 - c. セットアッププログラムが自動的に起動
- ⑥ 画面の指示に従ってインストールを進める
 - a. ほとんどのユーザーは、インストール中のすべての画面でデフォルト設定を選択
セットアッププログラムのほとんどのウィンドウで、**Next** をクリック
 - b. License Agreement ウィンドウで、**I Agree** ラジオボタンをクリックし、**Next** をクリック
 - c. インストール先フォルダの選択ウィンドウで
 - i. ワークステーションへのインストールには、デフォルトの場所 (X:¥Program Files¥OCLC¥Connexion¥、X はハードドライブのドライブ文字) を使用し、**Next** をクリック
または
別のパス名を入力するか、**Browse** をクリックして場所 (複数のワークステーションにインストールする場合はサーバー上のフォルダなど) を選択し、**Next** をクリック
 - ii. インストール対象を指定
 - そのワークステーションでクライアントを使用するのが自分だけの場合、

Just Me を選択

- そのワークステーションで他のユーザーもクライアントを使用する場合、**Everyone** を選択

注意: クライアントのバージョンをアップグレードする際は、毎回同じ選択を行うようにしてください。同じ選択でない場合、アップグレード後のクライアントが動作しなくなり、アンインストールしてから再インストールする必要があります。

注: 管理者としてログインしていない場合、この選択画面は表示されません。

- d. **(任意) Disk Cost** をクリックすると、使用可能なディスク容量と必要なディスク容量が表示される

- ⑦ **(任意)** インストールを中止したい場合、どの画面からでも可能で Cancel をクリックし、確認のために Yes をクリック
キャンセル後にインストールを再開するには、最初からプロセスをやり直す
- ⑧ インストールが完了したら、クライアントを実行する前にワークステーションをシャットダウンして再起動する
インストールプログラムにより、デスクトップに Connexion クライアントのショートカットが追加される

2. 詳細な設定

バージョンアップや再インストールの場合、Options の設定とマクロは保存されていますので、新たに設定を行わなくても Connexion Client を使う事ができます。
初めてインストールした場合は、以下の設定を行って下さい。

- ①インターフェイスの言語はデフォルトで English となっています。
* インターフェイス言語の変更は Tools→Options→International タブ内で
- ②メニューの Tools→Options を選びます。ここで各種の設定ができます。
設定を確定して Options を閉じる場合は OK をクリック、設定を確定するが Options は閉じない場合は Apply をクリックして下さい。

<Access タブ>

Options

Printing | RDA | Record Display | Spelling | Toolbar | Z39.50 |

Access | Authorizations | Batch | Classify | Derive Record | Export | Fonts | General | International | My Status |

Internet Access

☒ OCLC Default - For most users (<http://connexion.oclc.org>)

☐ Other URL

Proxy Server

☐ Use a proxy server to connect

Address: Port:

☐ Use proxy server authentication

User ID: Password: Domain:

☐ Persistent Connection

☒ Enable statistics logging

☐ Enable transaction logging

☐ Enable Macro logging

URL: <http://connexion.oclc.org>

OK Cancel Apply Help

Internet Access – OCLC Default
Enable statistics logging に
チェック

この状態がデフォルトです。通常このまま使用します。
プロキシサーバーをお使いの場合は、Persistent Connection にチェックを入れてください。

<Authorization タブ>

Options

Printing | RDA | Record Display | Spelling | Toolbar | Z39.50 |

Access | Authorizations | Batch | Classify | Derive Record | Export | Fonts | General | International | My Status |

Default: Authorization # Password: Name:

☒

☐

☐

☐

☐

☐

☐

☐

☐

☐

☐ No Default Authorization

OK Cancel Apply Help

オーソリゼーション、パスワード、オーソリゼーションの名称（任意）を入力します。

複数のオーソリゼーションが入力でき、Default 欄にチェックが入っているものがデフォルトで接続に使用されます。

接続毎にオーソリゼーションを選択したい場合、「No Default Authorization」を選択して下さい。

<Batch タブ>

Options

Printing | RDA | Record Display | Spelling | Toolbar | Z39.50 |
Access | Authorizations | Batch | Classify | Derive Record | Export | Fonts | General | International | My Status |

Searching

Maximum Number of Matches to Download:

Batch Search Keys to Retain:

☒ Too Many Matches
☐ Not Found or Error

Record Actions

☒ Delete attached LHRs and Local Bib Data when Deleting Holdings

Perform local actions in batch:

☐ Bibliographic Record Export
☐ Label Printing
☐ Authority Record Export

☒ Display batch reports automatically
☐ Print batch reports automatically

OK Cancel Apply Help

バッチ処理を行う場合には設定しておいて下さい。

WorldCat ディスカバリーでローカル所蔵レコード(LHR)やローカル書誌データ(LBD)を使用しており、所蔵削除をバッチで行う場合には、Record Actions エリアの「Delete attached LHRs and Local Bib Data when Deleting Holdings」へのチェックを必ず入れて下さい。

<Classify タブ>

Options

Printing | RDA | Record Display | Spelling | Toolbar | Z39.50 |
Access | Authorizations | Batch | Classify | Derive Record | Export | Fonts | General | International | My Status |

Classify is a prototype OCLC Research Classification service which provides recommendations intended to facilitate the assignment of Dewey (DDC) and Library of Congress (LCC) classification numbers for books, movies, music, and various other resource types.

Classification:

☐ Dewey
☒ Library of Congress

Enter the 3-digit tag of the variable field to create with the Classify result:

OK Cancel Apply Help

* 通常はそのままにしておきます。

<Derive Record タブ>

Options

Printing | RDA | Record Display | Spelling | Toolbar | Z39.50 |
Access | Authorizations | Batch | Classify | Derive Record | Export | Fonts | General | International | My Status |

Select fields to transfer

Bibliographic Records and Constant Data:

☐ 006	☐ 04X	☐ 08X	☒ 3XX	☒ 7XX
☐ 007	☐ 05X	☐ 09X	☒ 4XX	☒ 8XX
☐ 02X	☐ 06X	☒ 1XX	☒ 5XX	☐ 9XX
☐ 03X	☐ 07X	☒ 2XX	☒ 6XX	

Reset

OK Cancel Apply Help

既存の書誌レコードをコピーして新規書誌レコードを作成する時、新規レコードに残す Tag を選択します。

* 通常はデフォルトの 1XX～8XX で OK です。

<Export タブ>

Options

Printing | RDA | Record Display | Spelling | Toolbar | Z39.50 |
Access | Authorizations | Batch | Classify | Derive Record | Export | Fonts | General | International | My Status |

Destination

(None)
File:(Prompt for filename)

Create... Edit... Delete

Record Characteristics... Field Export Options...

☒ Allow export of workforms
☐ Display report for immediate export results
☒ Warn before exporting bibliographic records that include unlinked non-Latin script fields

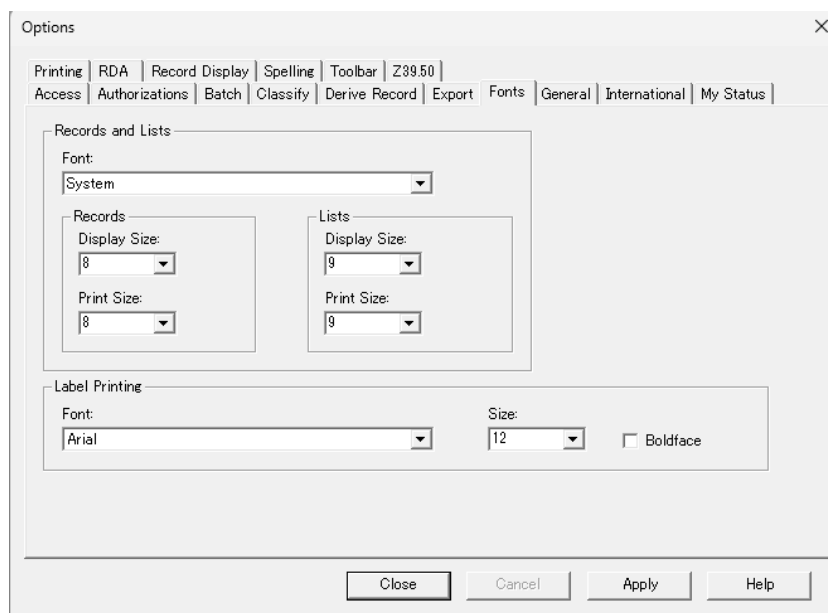
Close Cancel Apply Help

ファイルやローカルシステムにレコードのエクスポート(出力)を行う場合は設定します。

出力フォーマットと文字コードは「Record Characteristics」をクリックして設定して下さい。

「Allow export of workforms」にチェックがある時、OCLC 番号を持たないワークフォームデータのエクスポートが可能となります。

<Fonts タブ>

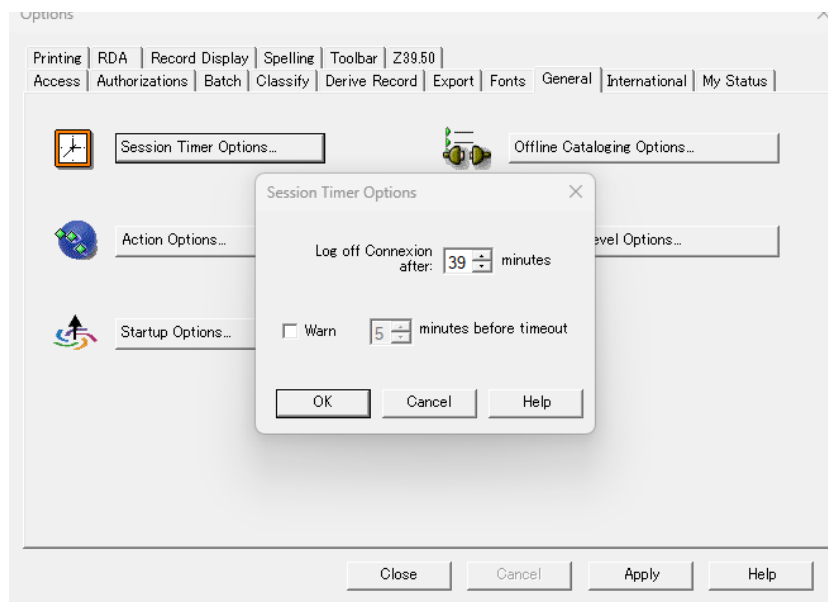


表示する文字のフォントと大きさを設定できます。

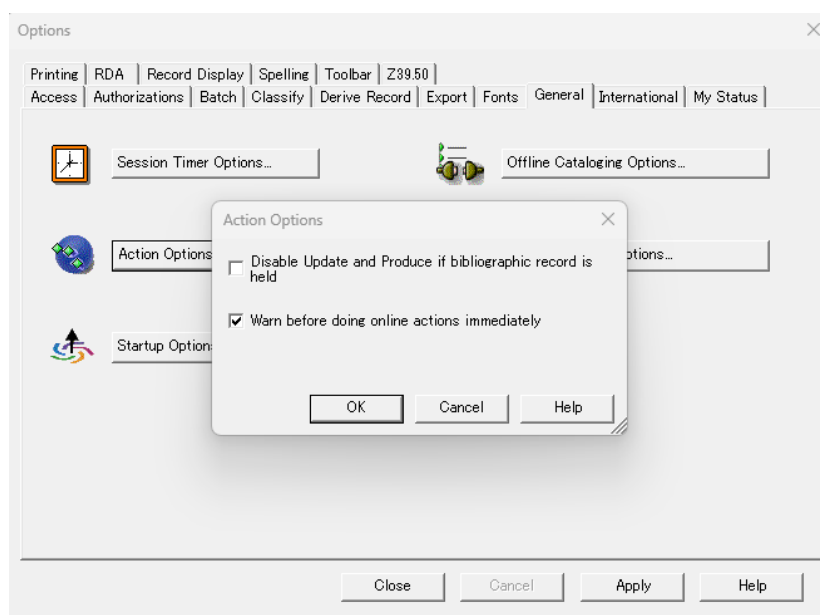
* フォントの種類を変更すると表示できなくなる文字があります。

* サイズが大きすぎる場合、横にスクロールしないと全体が見えない場合があります。

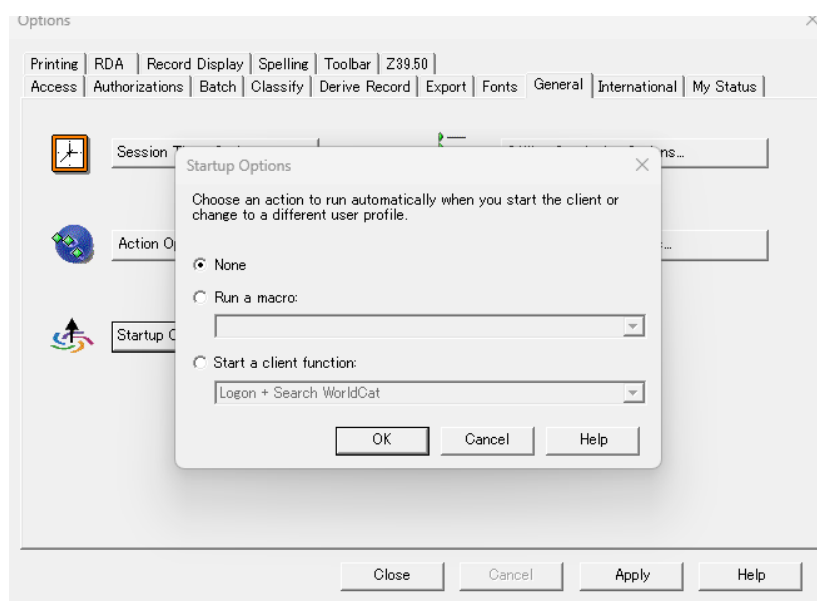
<General タブ>



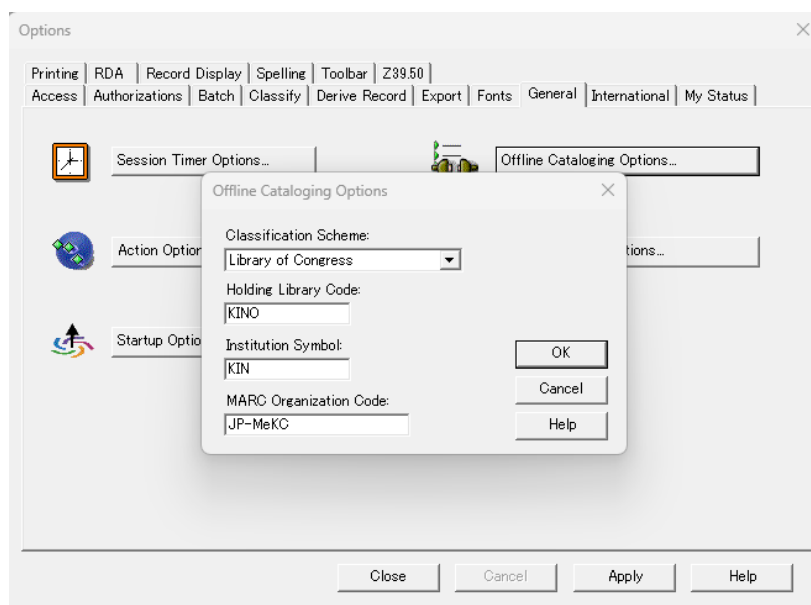
Session Time Options で自動ログオフまでの時間を設定できます。39 分が最長で、その前に警告メッセージを表示したい場合は「Warn」にチェックを入れ、タイムアウトの何分前に表示させるかを選択します。



Action Options では、所蔵付与済のデータを登録できないように設定したり、オンラインで登録などの最終アクションを行おうとすると警告を表示する設定にしたりできます。

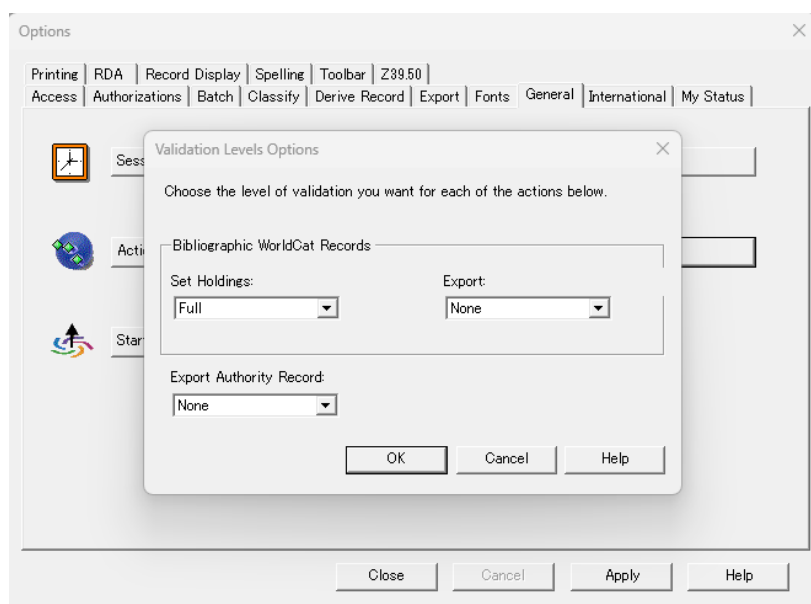


Startup Options で設定すると、Connexion client 起動と同時に自動で既存のマクロを実行させたり、メニューの機能を実行させたりできます。



Offline Cataloging Options をクリックし、「Holding Library Code（自館の OCLC シンボル+1 文字）」と「Institution Symbol（自館の OCLC シンボル）」、また MARC Organization Code（MARC 機関コード）をお持ちの場合は入力しておきます。

書誌レコードを表示する際、Tag040、Tag049 はここから自動的にセットされます。



Validation Level Options では、所蔵登録やエクスポート時に自動で行われるバリデーション（データチェック）のレベルを設定できます。

Bibliographic WorldCat Records

所蔵登録時

Structure: インジケータが存在する場合、それが 1 文字であること、BLvl および Type が正しいこと、および以下のフィールドが存在することを確認します（一部のフィールドに

については、データが有効であるかどうかもチェックします) --デフォルト

Leader, 001, 005, 008, 040 \$c, 049, 245 \$a または 245 \$k

Basic: Structure のチェックに加え、エレメントの妥当性、フィールド内データやコードの長さ、繰り返し規則、種類など

Full: Structure、Basic のチェックに加え、エレメント間の関係についてもチェック

エクスポート(Export)時

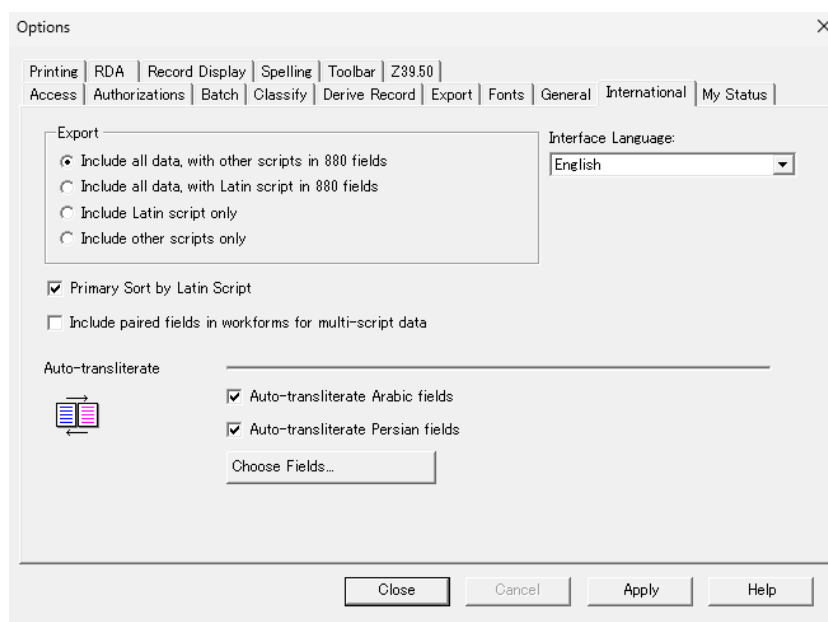
None: 自動バリデーションを行わない

Basic: 「所蔵登録時」を参照

Full: 「所蔵登録時」を参照

Export Authority Record: 上記書誌レコードのエクスポート時レベルを参照

<International タブ>



非ラテン文字を含むレコードの扱いを設定します。

Export 欄ではラテン文字のフィールドと非ラテン文字のフィールドの両方をエクスポート時に出力するか、片方のみを出力するか、両方の場合にどちらを 880 フィールドとするかが選択できます。

Interface Language のドロップダウンメニューではインターフェイスの言語を変更できます。

Primary Sort by Latin Script チェックボックスでは検索結果一覧のソート方法が以下の 2 つから選択できます。

- ラテン文字データのアルファベット順 (デフォルト)
- 非ラテン文字データの Unicode 順

Include paired fields in workorms for multi-script data チェックボックスをチェックすると、ワークフォームが非ラテン文字フィールド用の行を含んだものに変更されます。

Auto-transliterate 欄でチェックを入れることにより、以下の場合に翻字フィールドからアラビア文字、ペルシャ文字への自動変換を行います。

- WorldCat からインタラクティブにレコードを取得する場合
- レコードに言語コード「ara」または「per」が含まれているが、フィールド 066 が存在しない場合

WorldCat のバッチ検索、またはセーブファイル（オンライン/ローカル）から取得したレコードについては、自動変換は行われません。

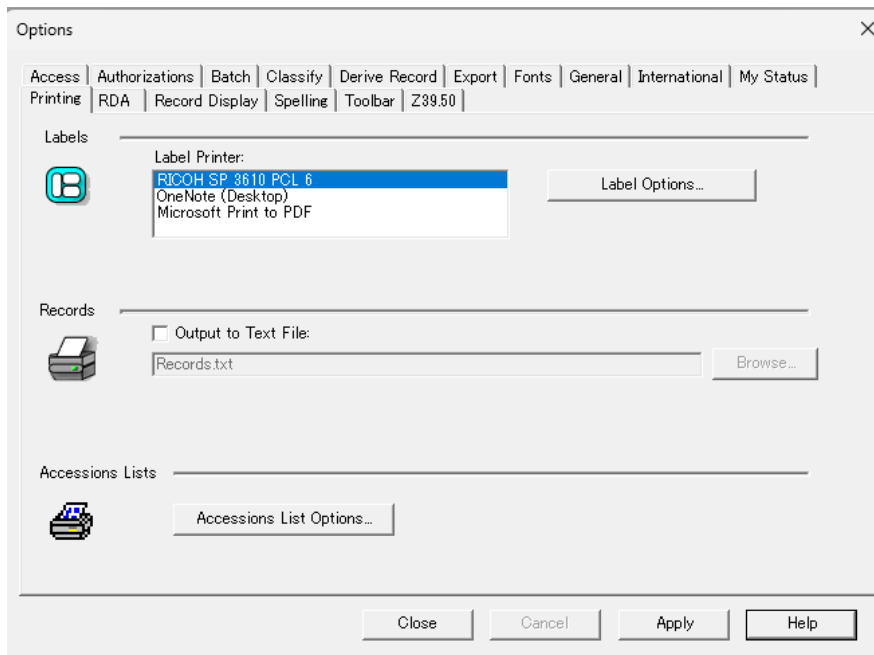
注: Choose Fields...ボタンをクリックして変換を行うフィールドを選択します。

< My Status タブ >

入力しておく、レコードセーブ時に「誰」がセーブしたレコードか示す印が自動で付きます。オンラインセーブファイルに複数の作業者のレコードが混在する場合、自分のレコードだけを呼び出せる状態になります。

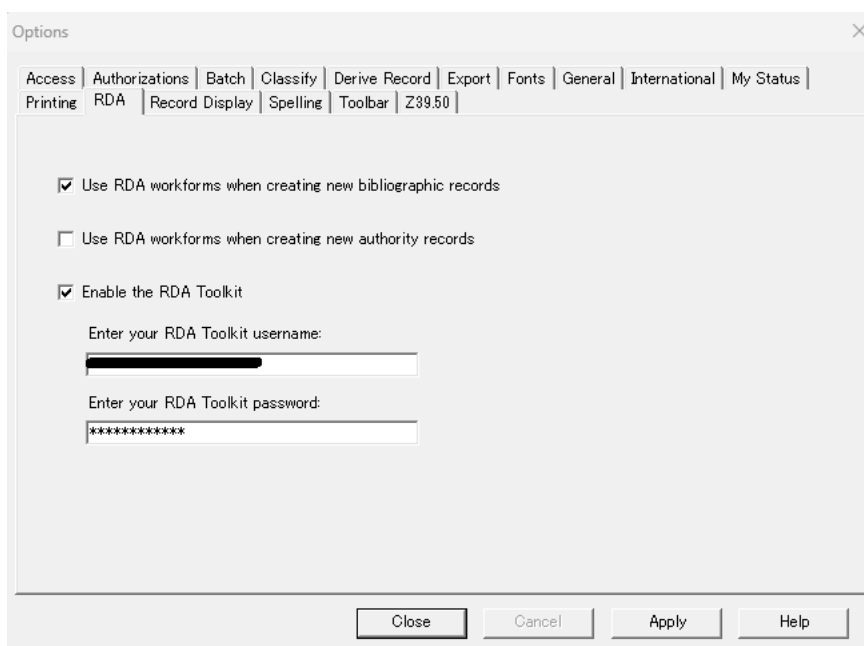
特定のレコードにのみ My Status を設定したい場合は、該当レコードを表示した状態で Action → Set Status を選択してください。

<Printing タブ>



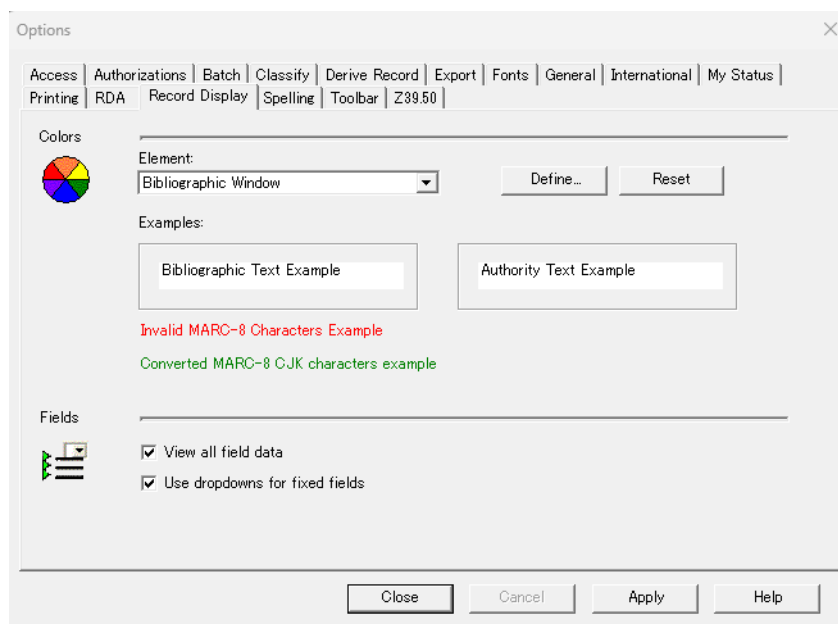
PC の設定を引き継いでいますので、何もしなくて結構です。

<RDA タブ>



RDA 形式でレコード作成をする場合、最上部の「Use RDA workforms when creating new bibliographic records」にチェックを入れて下さい。新規入力用ワークフォームが RDA 形式になります。また、RDA ツールキットをお使いの場合、ユーザーネームとパスワードを入力しておくと、OCLC の画面から RDA ツールキットに直接飛ぶ事ができます。

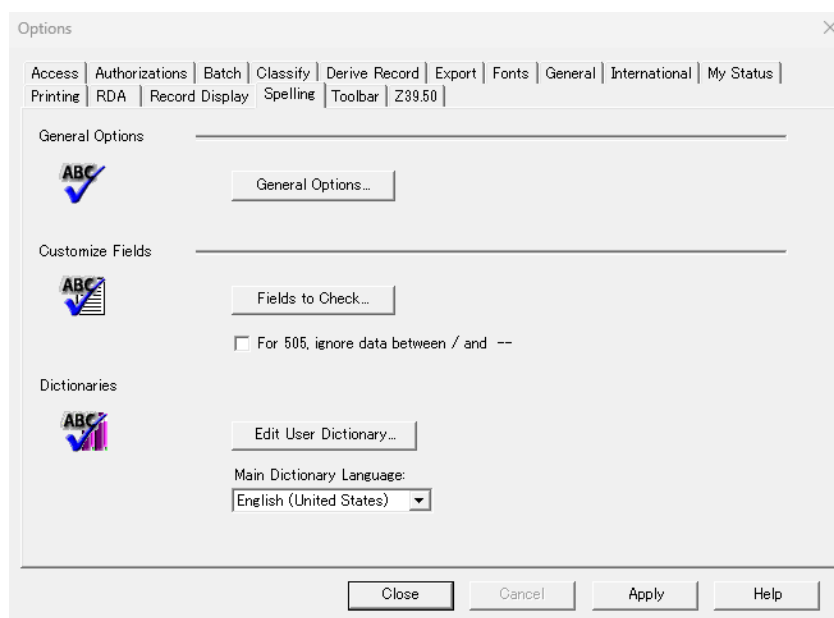
<Record Display タブ>



表示の色を変更できます。

下部 Fields 欄の 2 つはデフォルトのままチェックが入った状態にしておいて下さい。

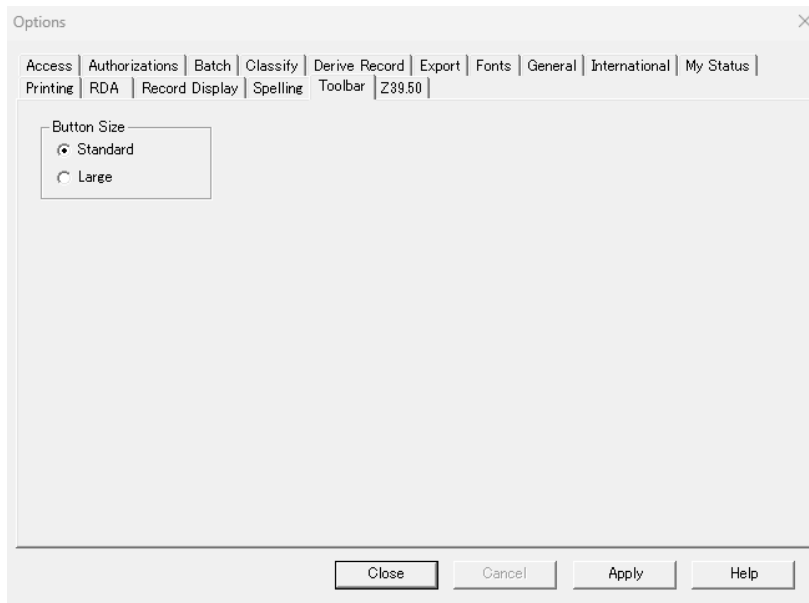
<Spelling タブ>



スペルチェックの設定タブです。

* このままで構いません。

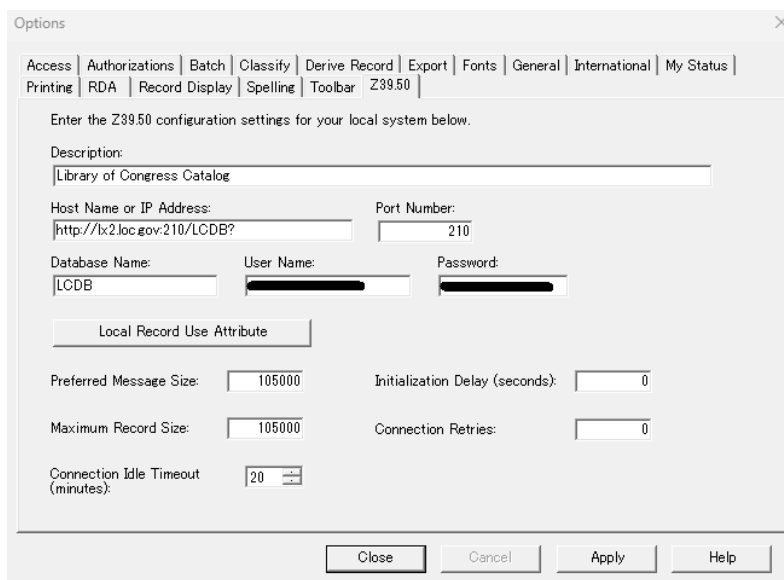
<Toolbar タブ>



ツールボタンの大きさを大きくできます。

* ツールボタンのレイアウト変更は Tools→Toolbar Editor を開き、ドラッグ&ドロップ操作で行って下さい。

<Z39.50 タブ>



Z39.50 で自館のローカルシステムにアクセスするための設定画面です。

* 何も入力しなくて結構です。

Update Connexion client to ver.3.1
2026/5/22

ご不明なことがありましたら、下記までお問い合わせください。
株式会社紀伊國屋書店 OCLC 事業部
電話：03-6910-0514
ファクス：03-5436-6921
e-mail：oclc@kinokuniya.co.jp